

知っていますか？

“口腔機能発達不全症”

不適切な母乳やミルク、離乳食などの与え方や生活習慣などによって
口腔周囲筋の機能的発達不全を起こし、
呼吸や嚥下、発音に障害を生じてしまいます。

 同病名と診断された場合、歯科医院で保険での管理指導を行えます

例えば、このような症状が引き起こされる可能性があります

口呼吸



いびき



無呼吸
症候群

▼ 様々な障害の可能性 ▼

注意欠陥
多動性障害



集中力の低下
(学習障害)



〈発達障害の可能性〉

発育障害

低身長



肥満

など

様々な症状



漏斗胸



夜尿症

など

アデノイド顔貌



- 歯が出る
- 口内炎
- あごが極端に後方になってしまう
- 鼻が小さい、または狭い
- 二重あご
- 唇が分厚くなる
- 顔がむくむ など

低位舌

口呼吸などで「低位舌」になると 発音にも問題が起こってきます

低位舌とは様々な原因により、舌全体が下がってきている状態。
「サ・タ・ナ・ラ行」が発音しにくくなり、いわゆる舌足らずな話し方になってしまう原因にもなります。



異常嚥下癖

低位舌などから異常嚥下癖が引き起こされ 歯並びや顔つきの形成にも影響が出てきます

異常嚥下癖により頬や唇に部分的な強い力が加わるため、あごが引っ込み出っ歯になると同時に気道を狭くして睡眠時無呼吸を起こしたり、あご自体が小さくなるなど、歯並びの乱れを引き起こします。

また、あごの成長不全により、顔つきの形成にも影響が出てしまう可能性も。

他にも、食べ物をこぼす、くちゃくちゃと音を出す、食べるのが遅いなどの傾向が出てきます。

正常な 成長の状態

- ・あごがきれいなアーチ
- ・きれいな歯並び
- ・あごの正常な成長
- ・正常な舌や口の発達



成長不全の 状態

- ・あごが狭くなる
- ・歯並びの乱れ
- ・あごが引っ込む
- ・頬や唇へ部分的な強い力が加わる



唇を閉じると筋肉が緊張し、
オトガイ(下あごの先)にシワ
ができ、唇を閉じると
への字になる。

口腔機能発達不全症の予防の為、口腔育成指導が行える
口育士(Oral Manager)のいる歯科医院で
出産時より指導管理を受けましょう。



一般社団法人

日本口育協会

Japan Oral Development Association